



# ビワの葉を用いた染色加工に関する研究

Tokushima Prefectural Industrial Technology Center

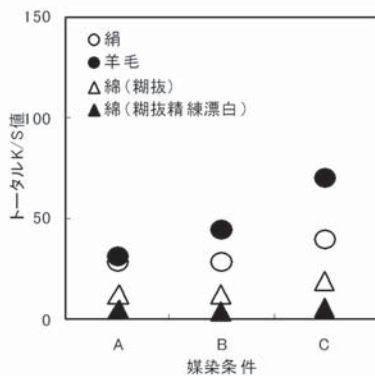
大進繊維(株) 大貫 俊彦  
工業技術センター 生活科学課 川人美洋子

## 1. 研究目的

環境に優しいライフスタイルに合う、石油系薬品や合成繊維を使わない天然染色の縫製品を検討する。本研究では、天然染料としてビワを選び、染色性評価を目的とする。

## 2. 研究内容

染色布の表面濃度（絹、羊毛、綿）および染色堅ろう度（絹、羊毛）を調べた。媒染剤は、ミョウバン（A）、木酢酸鉄（B）、および灰汁（C）を用いた。被染物は羊毛>絹>綿、媒染剤は灰汁>木酢酸鉄>ミョウバンの順に濃く染まった（図1）。羊毛は絹より黄みが弱く、赤みが強かった（表1）。洗濯試験の変退色は羊毛が絹より良好で、汚染はすべて良好だった。耐光試験では、若干絹が良好だった（表1）。



A: ミョウバン, B: 木酢酸鉄, C: 灰汁

図1 媒染と表面濃度

表1 染色布のCIELAB表色系

繊維	媒染	L*値	a*値	b*値	C*値	洗濯ΔE	耐光ΔE
絹	A	67.98	22.74	31.76	39.06	11.52	8.35
絹	B	65.41	18.09	27.82	33.19	8.61	7.47
絹	C	60.52	22.14	26.44	34.49	7.41	8.83
羊毛	A	66.42	22.82	20.59	30.74	7.49	7.59
羊毛	B	59.47	22.10	26.78	34.72	6.20	9.13
羊毛	C	50.53	22.82	20.59	30.74	2.65	9.54

●L\*値は明度, a\*値とb\*値は色の方向 (+a\*は赤方向, -a\*は緑方向, +b\*は黄方向, -b\*は青方向), C\*値は彩度, ΔEは色差を示す。

## 3. 研究成果

天然染色では黄みの強い色が多いので、ビワの赤みを生かし、試作した(図2)。



図2 試作品